未来をつなぐ架け橋へ
― TCとしての覚悟 ―



令和8年　2月　医療法人　白愛会
上曽山　美玖

1.はじめに

私は入職四年目を迎え、今年度から新卒スタッフの研修を任されることになった。任されたときは正直うれしかった。しかし同時に、大きな不安が押し寄せた。
「私は人に教えられるほどの人間なのだろうか。」
知識が足りない。うまく伝えられない。相手に響く言葉を持っていない。自分の未熟さを突きつけられたようだった。歯科の現場で日々働いてはいるものの、ただこなしているだけになっていないか。患者さんの前で、私は本当に価値を提供できているのだろうか。
その答えを探すような気持ちで、TCレギュラーコースの受講を決意した。

2.TCレギュラーコースを受講して

受講して最初に感じたのは、衝撃だった。
「私はコンサルをしていなかった。」これが正直な感想である。
これまでの私は、初診では主訴を確認し、とにかく早く治療へつなげることが優しさだと思っていた。2回目の来院時には、検査結果や虫歯の箇所を一生懸命説明する。それが仕事をきちんとやることだと信じていた。

しかし振り返ると、私は「話して」はいたが、「聴いて」はいなかった。
例えるなら、患者さんの心のドアをノックもせずに、説明という荷物を置いて帰っていたようなものだった。

私は正直、まずは「歯科は疾患を治すところ」だと思っていた。けれど講義の中で言われた、私たちTCの仕事は、
「現実を認識させ、理想を提案し、希望に変えること」
この言葉に、胸を打たれた。それができたとき、私たちの仕事は単なる治療説明ではなく、生活改善提案になるのだと学んだ。

きれいな自分。
よく噛める自分。
自信を持てる自分。

そんな未来を患者さんが思い描けたとき、人は自然と行動を変える。セルフケアをしようと思う。メンテナンスに通おうと思う。つまり私たちは、歯を変えているのではなく、人生の習慣を変えているのだ。4年目にして初めて、自分の仕事の尊さを実感した瞬間だった。

受講期間中、忘れられない出来事がある。ホワイトニングを強く希望される、少し高圧的な患者さんが来院された。「今日すぐやってほしい」と強い口調だった。

しかし口腔内は歯肉が腫れ、歯石も多い状態。このままでは痛みや炎症悪化のリスクがある。以前の私なら、「今日はできません」と事実だけを伝えていたかもしれない。
しかし私はIメッセージを意識し、こう伝えた。
「せっかく大切なお時間と費用を使ってくださるなら、最大限きれいになる状態で受けていただきたいと思っています。」

すると、あれほど強い口調だった患者さんの表情がふっと柔らかくなった。
「じゃあ、先にきれいにしてからやろうかな。」
その瞬間、胸が熱くなった。伝え方ひとつで、人の心は動くのだと体感した。

3.日本の歯科医療におけるTCの役割

日本は保険制度が整い、安価に治療が受けられる恵まれた国である。しかしその一方で、「痛くなったら行く場所」という認識が根強い。
削った歯は二度と戻らない。永久歯はもう生えてこない。それなのに、多くの人がその事実を知らないまま生活している。
私も歯科医院に務めるまでは、「治療すれば元通り」とどこかで思っていた。けれど実際は違う。治療は修復であって、再生ではない。

歯は、人生を共にするパートナーのような存在だ。失ってから大切さに気づくのでは遅い。だからこそTCが必要なのだと思う。
患者さんのニーズに応えるだけでなく、「こうなりたい」という「WANTS」を引き出す。未来を一緒に描き、そのための選択肢を提示する。
TCは、医療と生活をつなぐ架け橋であり、医院経営の要でもある。患者満足度、契約率、医院の信頼。すべては信頼関係の上に成り立つ。その土台を築けるのがTCだと学んだ。

4.スクールでの学びを医院でどう活かせるか

この学びは、患者さんだけでなく、新人教育にも活かせると感じている。
業務を教えるだけでなく、「なぜそれをするのか」を伝える。
頭で理解するだけでなく、心で納得できる伝え方をしたい。

自分の話すことの倍は人の話を聴くこと。
相手を絶対否定しないこと。
Iメッセージなどの相手を想った伝え方。
会社でも「すみません」ではなく「〇〇さん」とネームコーリングをして声をかける。
それは会社の人や家族や友人、恋人との関係でも同じである。

TCの学びは、単なる職業スキルではなく、人としての在り方も整えてくれるものだった。

5.おわりに

TCレギュラーコースを通して、私は「知識」を学んだのではなく、「覚悟」を学んだのだと思っています。
歯を治すための説明をする仕事ではなく、大げさかもしれないが、人の未来を支える仕事をしているのだという覚悟。
それに気づかせてくださった講師の先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。
毎回の講義は、ただの座学ではなく、自分自身の在り方を問い直す時間でした。

私の心に深く残っています。4年目にしてようやく、自分の仕事の誇りに気づくことができました。本当にありがとうございました。

そして今、強く思うことがあります。この想いを持ったTCが、もっと増えてほしい。目の前の数字や契約だけではなく、患者さんの人生に本気で向き合えるTCが増えたなら、日本の歯科医療はきっと変わると信じています。

患者さんが「ここに来てよかった」「自分の歯を大切にしようと思えた」
そう心から思える医院が増えたら、失ってから後悔する人はきっと減るはずです。

TCが変われば、医院が変わる。医院が変われば、患者さんの未来が変わる。
その連鎖の一員でいられることを、私は誇りに思います。
これから先、壁にぶつかることもあると思います。それでも、ここで学んだこと、感じた胸の高鳴り、みなさんと分かち合った想いを忘れずに歩んでいきます。

そしていつか、
「TCという仕事があってよかった」と心から言える歯科業界にしていきたい。
このような貴重な学びの場を与えてくださり、本当にありがとうございました。
この学びを、必ず現場で形にしていきます。

以上2409字